

「創薬等支援技術基盤プラットフォーム」講演会

日時:平成 27 年 1 月 23 日 (金) 15:00 ~

場所:静岡県立大学薬学部 6128 教室

講師:夏苺 英昭 先生 (帝京大学薬学部)

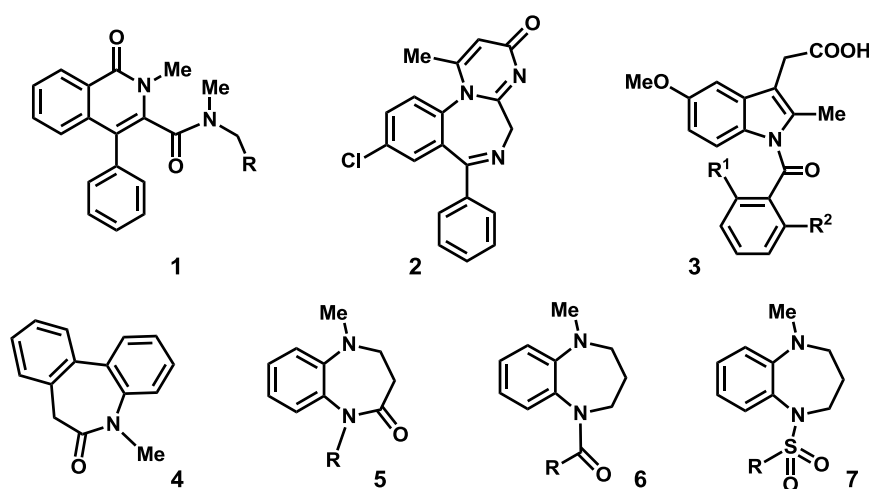
演題:「創薬」

第一部 新薬創製の現状—3万分の1を目指して—

第二部 くすりの効くかたち—アミド軸不斉の役割—

第一部:現在、新薬の研究開発は、科学的に未成熟な分野へ挑戦しなければならないこと、研究開発費の高騰、臨床試験の長期化、あるいは医薬品承認要件のバリアーアップなどから、大変困難な状況になっている。たとえば、新薬の成功率は、3万個の化合物を合成・生物評価して、ようやく一個の新薬が誕生する、という大変厳しい状況にある。しかし、製薬企業は、企業の命運をかけて、創薬という壮大な仕事に挑戦している。その現状を紹介する。

第二部:キラリティーは現代の創薬において重要な課題である。生理活性物質(医薬品)が作用を発現するとき、化合物は特定のコンホメーションをとって標的分子と結合する。分子が平面性を崩した場合にもキラリティーが生じるので、通常はアキラルである化合物もキラル分子として振舞うこともある。見過ごされがちであるが、ベンズアミド(あるいはアニリド)構造はそのような例である。下記の化合物群にキラリティーが存在することに気が付きますか? 生体はこれらのキラリティーを認識していることを紹介する。



問い合わせ先: 静岡県立大学 薬学部医薬品製造化学教室 菅 敏幸

Tel (054) 264-5746 ; Fax (054) 264-5745 E-mail: kant@u-shizuoka-ken.ac.jp